第３章　教育課程編成のための資料

第１節　教育課程を編成するに当たって考慮すべき事項

ここでは、教育課程を編成するに当たって考慮すべき事項について、７つの視点でまとめる。

はじめに幼稚園教育要領の関係部分の記述を資料として示したのち、その記述を踏まえた考慮すべき事項の要点を記載している。【要点】中の下線部は、教育課程編成に当たり反映されるべき点を示している。

この他に、必要に応じて、幼稚園教育要領解説の該当箇所を特に参照されたい。

教育課程は各園において、以下の事項に鑑み、各園や地域の実態等に応じ、創意工夫の上で編成されることが望まれる。

第１　「入園から修了までの生活」の視点

【幼稚園教育要領の記述】（第１章第３の４(1)）

○　幼児の生活は，入園当初の一人一人の遊びや教師との触れ合いを通して幼稚園生活に親しみ，安定していく時期から，他の幼児との関わりの中で幼児の主体的な活動が深まり，幼児が互いに必要な存在であることを認識するようになり，やがて幼児同士や学級全体で目的をもって協同して幼稚園生活を展開し，深めていく時期などに至るまでの過程を様々に経ながら広げられていくものであることを考慮し，活動がそれぞれの時期にふさわしく展開されるようにすること。

【要点】

幼児期においては、自我が芽生え、自己を表出することが中心の生活から、次第に他者の存在を意識し、他者を思いやったり、自己を抑制したりする気持ちが生まれ、同世代での集団生活を円滑に営むことができるようになる時期へと移行していく。入園から修了までに、幼児の生活する姿がどのように変容するかという発達の過程を捉え、発達の見通しをもつことが大切である。入園から修了までの幼児の生活する姿は、幼稚園の実態によって様々であり、それぞれの幼稚園においてその実態に即した方法で捉えることが大切である。

発達はそれぞれの時期にふさわしい生活が展開されることによって促され、また必要な経験を積み重ねることにより初めて望ましい発達が促されていくので、先を急ぎ過ぎたり、幼児にとって意味のある体験となることを見逃してしまったりすることのないように配慮する。

入園当初においては、幼稚園生活がこれまでの生活と大きく異なるので、家庭との連携を緊密にすることによって、個々の幼児の生活に理解を深め、幼児が安心して幼稚園生活を送ることができるよう配慮することが必要である。

第２　「入園当初の配慮」の視点

【幼稚園教育要領の記述】（第１章第３の４(2)）

○　入園当初，特に，３歳児の入園については，家庭との連携を緊密にし，生活のリズムや安全面に十分配慮すること。また，満３歳児については，学年の途中から入園することを考慮し，幼児が安心して幼稚園生活を過ごすことができるように配慮すること。

【要点】

３歳児は、発達の特性を踏まえ、一人一人に応じたきめの細かな指導が一層必要であり、一人一人の生活の仕方やリズムに配慮して、１日の生活の流れを考えることが大切である。また、周囲の状況を顧みず、興味のままに動いてしまう３歳児の発達の特性から、安全については十分な配慮が必要である。

満３歳児は学年の途中から入園するため、集団での経験が異なる幼児がともに生活することになるので、教師は幼児の心の動きに寄り添って関わり、一人一人の幼児の生活の仕方やリズムを尊重するとともに、満３歳児の入園に関する幼稚園の実態に即した配慮を行う必要がある。

保育機能の施設に在籍し、その後幼稚園に入園するなどの生活経験をしている幼児がいることを踏まえ、その生活経験を生かした活動を展開することも大切である。保育機能の施設と幼稚園での生活は異なる点もあるため、幼稚園の教師と保育士等が連携し、その変化を十分に把握しつつ、円滑な接続を図り、幼児の実情に応じた生活を送ることができるように配慮することも必要である。

第３　「安全上の配慮」の視点

【幼稚園教育要領の記述】（第１章第３の４(3)）

○　幼稚園生活が幼児にとって安全なものとなるよう，教職員による協力体制の下，幼児の主体的な活動を大切にしつつ，園庭や園舎などの環境の配慮や指導の工夫を行うこと。

【要点】

各園においては、幼児が健康で安全な生活を送ることができるよう、全教職員で協力体制を作るとともに、日々の生活の中で、教師は幼児との信頼関係を築き、個々の幼児が安定した情緒の下で行動できるようにすることが大切である。

幼児期は、発達の特性として、友達の行動の危険性は指摘できても、自分の行動の危険性を予測できないということもあるので、友達や周囲の人々の安全にも関心を向けながら、次第に幼児が自ら安全な行動をとることができるように、発達の実情に応じて指導を行う必要がある。その際、日常の生活の中で十分体を動かして遊ぶことを通して、その中で危険な場所、事物、状況などが分かったり、どうしたらよいかを体験を通して学びとっていったりすることが大切である。

幼児が遊びの中で十分に体を動かすことを通して安全についての理解を深めるためには、園庭や園舎全体が幼児の遊びの動線や遊び方に配慮したものとなっていることや指導の工夫を行うことが大切である。

各園では、日頃から安全に関する実施体制の整備とともに、学校安全計画や危機管理マニュアルなどを作成し、園内の全教職員で共通理解し、常に見直したり、改善したりしておくことも必要である。

第４　「小学校以降の生活や学習の基盤の育成」の視点

【幼稚園教育要領の記述】（第１章第３の５(1)）

○　幼稚園においては，幼稚園教育が，小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることに配慮し，幼児期にふさわしい生活を通して，創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培うようにするものとする。

【要点】

幼稚園教育は、小学校以降の生活や学習の基盤となるものである。幼児は、幼稚園から小学校に移行していく中で、突然違った存在になるわけではない。幼児の発達や学びは連続しているため、幼稚園から小学校への移行を円滑にする必要がある。幼稚園において大切なことは、小学校教育の先取りをすることではなく、就学前までの幼児期にふさわしい教育を行うことである。

幼稚園教育は、幼児期の発達に応じて幼児の生きる力の基礎を育成するものである。幼児なりに好奇心や探究心をもち、問題を見いだしたり、解決したりする力を育てること、豊かな感性を発揮したりする機会を提供し、それを伸ばしていくことが大切になる。

幼稚園教育において、幼児が小学校に就学するまでに、創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培うことが重要であり、それらの基礎が育ってきているか、さらに、小学校の生活や学習の基礎へと結びつく方向に向かおうとしているかを捉える必要がある。また、小学校への入学が近づく幼稚園修了の時期には、皆と一緒に教師の話を聞いたり、行動したり、きまりを守ったりすることができるようにすることや、協同して遊ぶ経験を重ねることによって、共に協力して目標をめざそうとすることが大切であるので、このことに留意して指導方法を工夫したい。

第５　「小学校教育との接続」の視点

【幼稚園教育要領の記述】（第１章第３の５(2)）

○　幼稚園教育において育まれた資質・能力を踏まえ，小学校教育が円滑に行われるよう，小学校の教師との意見交換や合同の研究の機会などを設け，「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有するなど連携を図り，幼稚園教育と小学校教育との円滑な接続を図るよう努めるものとする。

【要点】

幼稚園と小学校における生活の変化に子供が対応できるようになっていくことも学びの一つとして捉え、教師は適切な指導を行うことが必要である。

子供の発達と学びの連続性を確保するためには、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに、幼稚園と小学校の教師が幼児の成長を共有することを通して、幼児期から児童期への発達の流れを理解することが大切である。また、子供の発達を長期的な視点で捉え、互いの教育内容や指導方法の違いや共通点について理解を深められるよう、小学校の教師との意見交換や合同の研究会や研修会、保育参観や授業参観などの連携を図るようにすることが大切である。

円滑な接続のためには、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を生かして、幼稚園の教師から小学校の教師に幼児の成長や教師の働きかけの意図を伝えること、幼児と児童の交流の機会を設け、連携を図ることが大切である。

第６　「障害のある幼児などへの指導」の視点

【幼稚園教育要領の記述】（第１章第５の１）

○　障害のある幼児などへの指導に当たっては，集団の中で生活することを通して全体的な発達を促していくことに配慮し，特別支援学校などの助言又は援助を活用しつつ，個々の幼児の障害の状況などに応じた指導内容や指導方法の工夫を組織的かつ計画的に行うものとする。

【要点】

幼稚園では、障害のある幼児のみならず、教育上特別の支援を必要とする幼児が在籍している可能性があることを前提に、全ての教職員が特別支援教育の目的や意義について十分に理解することが不可欠である。

障害のある幼児を指導する場合には、幼稚園教育の機能を十分生かして、幼稚園生活の場の特性と人間関係を大切にし、その幼児の障害の状況や特性及び発達の程度等に応じて、発達を全体的に促していくことが大切である。

障害のある幼児の障害の状態などは個々に異なるので、その幼児の発達を全体的にとらえ、個別の教育支援計画及び個別の指導計画を作成することが重要であり、その際、保護者と密接に連携しながら、幼稚園修了後も見通すことが必要である。

園長は、園内委員会の設置や特別支援教育コーディネーターの指名など、園内の協力体制を充実させ、効果的な幼稚園運営に努める必要がある。また、各園では幼児の障害の状態等に応じた指導の充実のために、特別支援学校等に対し、専門的な助言や援助を要請するなどして、計画的、組織的に取り組むことが重要である。

第７　「海外から帰国した幼児等の幼稚園生活への適応」の視点

【幼稚園教育要領の記述】（第１章第５の２）

○　海外から帰国した幼児や生活に必要な日本語の習得に困難のある幼児については，安心して自己を発揮できるよう配慮するなど個々の幼児の実態に応じ，指導内容や指導方法の工夫を組織的かつ計画的に行うものとする。

【要点】

幼稚園においては、海外から帰国した幼児や外国人幼児、両親が国際結婚であるなどのいわゆる外国につながる幼児が在園することもある。これらの幼児一人一人の実態は、在留国、母国の言語的・文化的背景、滞在期間、年齢、就園経験の有無、家庭の教育方針などによって様々であり、中には生活に必要な日本語の習得に困難のある幼児もいる。そのため、一人一人の実態を的確に把握し、指導内容や指導方法の工夫を組織的かつ計画的に行うとともに、全教職員で共通理解を深め、幼児や保護者と関わる体制を整えることが必要である。

教師は、幼児が教師によって受け入れられ、見守られているという安心感をもち、次第に自己を発揮できるよう配慮することが重要である。また、教師や他の幼児との温かい触れ合いの中で、自然に日本語や日本の生活習慣に触れたりすることができるように配慮したり、保護者に対し丁寧に園生活や園での方針を説明したりするなどして家庭との連携を図ることも大切である。

第２節　現代的課題を踏まえた編成事例

第１　「地域の人的・物的資源」を生かした編成事例

地域住民、保護者などの人的資源や商店街などの物的資源を生かした教育課程の例である。地域の人的・物的資源の活用に関する内容及び具体的方法は太字で示す。

地域の人的・物的資源の活用のためには、普段から、「園だより」を地域に回覧し、園の活動を知ってもらう、園の活動に必要な人材を募集し、地域の人に保育に参加してもらう、積極的に地域の行事に参加する、地域の施設を利用するなどの取組により、地域とのつながりを深めておくことが必要である。

教育目標	○　あかるい子　　○　おもいやりのある子　　○　がんばる子

期	発達の過程	ねらい	内容 (太字：地域の人的・物的資源活用に関するもの)
○期 3歳児 4～5月	・家庭から離れ、不安を感じ泣く姿や保護者から離れにくい姿が見られる。 ・教師をよりどころとして、徐々に活動の場を広げようとする。	・喜んで登園し、教師に親しみをもつ。 ・園生活の流れを知り、園の生活リズムに慣れる。 ・園の遊具や用具に興味をもち、自分から遊ぼうとする。	・教師との関わりの中で、挨拶をしたり、名前を呼ばれたら返事をしたりする。 ・自分のロッカーの場所が分かり、教師の手伝いを得ながらも、簡単な身の回りの始末を自分でやろうとする。 **【家庭との連携：保護者ボランティアの活用】** **・教師やパパママ先生に見守られながら、安心して過ごす。** **【人材活用：幼稚園応援団の活用】** **・地域の方に見守られながら登降園する。**
○期 4歳児 6～8月	・友達と一緒に過ごす事を喜ぶようになる。 ・言葉や態度で、はっきりと意思表示をする幼児がいる一方、消極的な幼児の姿も見られる。	・好きな遊びに取り組む中で友達と触れ合って遊ぶ楽しさを感じる。 ・いろいろな遊びに興味をもつ。	・友達と同じものを持ったり身に付けたりして、同じことをして遊ぶ。 ・いろいろな素材や用具に興味をもち、触れて遊ぶ。 ・身近な動植物との関わりを楽しむ。 ・水遊びでの手順やルールを知り、安全に遊ぶ。 **【人材活用：幼稚園応援団・中学生ボランティアの活用】** **・水を使ったいろいろな遊びに親しむ。**
○期 5歳児 6～8月	・気の合う友達同士で関わりを深めて遊ぶようになる。 ・物の性質や仕組みに気付き、自分から進んでやってみようとする。	・いろいろな活動に意欲的に取り組む。 ・気の合う友達と思いを伝え合いながら遊びを進める。 ・自分なりに工夫したり挑戦したりして遊ぶ。	・気の合った友達と思いを十分に出し合いながらいろいろな遊びを楽しむ。 ・遊びの中で自分のやりたいことに取り組み、考えたり試したりする。 ・身近な動植物の世話をしたり、収穫を喜んだりして、生命の大切さに気付く。 ・様々な人との触れ合いを喜び、活動を楽しむ。 **【人材活用：幼稚園応援団・中学生ボランティアの活用】** **・夏野菜の苗を植えるなどの栽培活動に取り組み、育てる喜びを味わう。**
○期 5歳児 1～3月	・友達のよさや頑張っていることが分かり、互いに励ましたり認めたりするようになる。 ・予想や見通しが立てられるようになり、自信をもって生活するようになる。	・目的や課題をもって進んで取り組み、やり遂げる充実感を味わう。 ・小学生になるという自覚をもち、自主的に行動する。	・友達と共通の目的に向かって取り組み、やり遂げた喜びを味わう。 ・文字や数量に興味や関心をもち、遊びに取り入れる。 ・一日の流れや時間の目安が分かり、見通しをもって生活する。 ・小学生との交流活動を通して、小学校の施設や生活の様子を知り、小学校入学への期待を高める。 **【地域連携：商店街での作品展示】** **・身近な地域の人と喜んで関わる。**

※「発達の過程・ねらい・内容」等の項目は一例である。各園の実態及び創意工夫により設定すること。

第２　「入園から修了までの生活」を踏まえた編成事例

埼玉県教育委員会が小学校入学までに子供たちに身に付けてほしいこととしてまとめた「子育ての目安『３つのめばえ』」※を指導の視点とし、入園から修了までの教育課程に明記した幼稚園の事例である。

教育目標	げんきに……自分の思うことを表現する子・力いっぱい遊ぶ子 なかよく……友達の話を聞く子・やさしさや思いやりのある子 たくましく…自分の力でやろうとする子・最後までがんばる子

「子育ての目安『３つのめばえ』」で示す３つの視点　「生活…㋝　他者との関係…㋟　興味・関心…㋡」

期	発達の過程	ねらい	内容
○期 3歳児 4～5月	・初めての集団生活への緊張や不安から、泣いたり、保護者から離れられなかったりして、不安そうな姿が見られる。 ・教師に温かく受け入れられることで、徐々に心を開き、友達の様子や遊びに興味を示し、遊ぼうとする。	㋝園生活の流れを知り、安心して過ごせるようになる。 ㋟教師に親しみ、喜んで登園する。 ㋡遊具や用具に興味をもち、自分から遊ぼうとする。	㋝自分のクラスやロッカー等が分かり、教師と一緒に身の回りの始末をする。 ㋟挨拶をしたり、名前を呼ばれると返事をしたりする。 ㋡好きな遊びを見つけて遊ぶ。
○期 3歳児 6～8月	・園生活に慣れ、友達と一緒に好きな遊びを楽しみながら行うなど、活動の場を広げていく。 ・一人一人が自己主張するようになり、物の取り合いなど、友達とぶつかり合うことが増えてくる。	㋝夏の生活の仕方を知り、簡単な身の回りのことを自分でもしようとする。 ㋟教師や友達と触れ合い、遊ぶ楽しさを感じる。 ㋡いろいろな遊びに興味をもつ。	㋝身の回りのことや準備などを自分でしようとする。 ㋟好きな遊びの中で気の合う友達との遊びを楽しむ。 ㋡固定遊具や追いかけっこなど、体を動かして遊ぶことを楽しむ。
○期 5歳児 9～12月	・友達の思いや考えを受け止めながら、目的をもって遊ぶ姿が見られる。 ・知的好奇心や探求心が高まり身の周りのことに積極的に関わろうとするようになる。	㋝生活に見通しをもち、自分たちの遊びや活動を進める。 ㋟目的に向かって友達と協力したり、分担したりして遊びを進める。 ㋡身近な自然に興味や関心をもって十分触れ合い、見たり考えたりしながら遊ぶ。	㋝自分たちで遊びの場や活動の場を整えたり、片づけたりする。 ㋟同じ興味や目的をもった友達と一緒に、楽しみながら遊びや活動を進める。 ㋡自然の変化に気付いたり、自然物を使って遊んだりする。
○期 5歳児 1～3月	・「もうすぐ小学生」という期待をもちながら、自分たちの遊びを十分楽しみ、互いを認め合い、主体的に生活を進めようとする姿が見られる。 ・生活や活動を見通し、友達同士で相談したり、工夫したりしながら積極的に活動するようになる。	㋝小学校生活への関心や興味をもちながら、幼稚園生活を楽しむようにする。 ㋟遊びや生活に見通しをもち、課題に取り組んだり、遊びを進めたりしながら生活を楽しむ。 ㋡遊びを通して、文字や数に興味や関心をもつようにする。	㋝自分なりの課題に挑戦し、多少の困難にもくじけないでやり遂げようとする。 ㋝㋟友達と一緒にルールを守って、いろいろな運動や遊びに楽しく取り組む。 ㋟教師やいろいろな人たちが自分の成長を喜んでいることを知り、感謝の気持ちをもつ。 ㋟異年齢児との関わりを深め、親しみや思いやりをもって接する。 ㋡カルタ、トランプ、すごろく、郵便屋さんごっこなどの遊びを通して、文字や数量に興味や関心をもち、遊びを進める。

※「発達の過程・ねらい・内容」等の項目は一例である。各園の実態及び創意工夫により設定すること。

※「子育ての目安『３つのめばえ』」は県教育委員会のHPに掲載（http://www.pref.saitama.lg.jp/f2215/mebae02/）

第３　「小学校教育との接続」を踏まえた編成事例

幼稚園と小学校が隣接しており、園生活の中で日常的に幼児と児童との交流が行われている幼稚園の事例である。小学校との接続に関する内容は、太字で示す。異年齢児との関わりについての内容は、別枠（網がけ部）で示す。

教育目標	あかるく……明るく素直で、自信をもって生き生きと自分の思うことを表現する子 なかよく……よいきまりを身に付け、優しい心で友達や身近な人々と適切に関わる子 たくましく……元気で伸び伸びと遊び、何事も自分の力で意欲的にやろうとする子

期	発達の過程	ねらい	内容	異年齢児との関わり
○期 4歳児 10～12月	・気の合う友達と遊ぶ楽しさが分かり、いろいろなことに興味をもって遊ぶようになる。	・気の合う友達と遊ぶ中で、気持ちを出し合いながら遊ぶ楽しさを味わう。 ・身近な自然や行事に興味をもち、いろいろなことに喜んで関わる。	・自分の思いを言葉で伝えたり友達の話を聞いたりして、友達との関わりを楽しむ。 ・秋の自然に触れ、戸外で進んで遊んだり、自然の様子に興味をもって関わったりする。	・喜んで年長児と関わり、年長児と一緒にした遊びを自分たちの遊びに取り入れていこうとする。 **・小学生と喜んで触れ合う。**
○期 4歳児 1～3月	・自分たちなりに遊びを考えたり、友達の考えに気付いたりして、遊びを進めるようになる。 ・進級への喜びをもつようになる。	・友達と一緒に遊ぶ中で思ったこと、感じたことを喜んで表現する。 ・いろいろな行事を通して、進級に期待をもつ。	・友達にも考えや思いがあることに気付き、楽しく遊ぶ。 ・冬から春の自然に興味をもって関わり、変化に気付く。	・年長児と関わったり行事を経験したりして進級に関心をもつ。 **・小学生と楽しく触れ合い、親しみをもつ。**
○期 5歳児 9～12月	・友達と考えを出し合いながら遊びを進める中で、友達関係の深まりが出てくる。	・自分の力を発揮して、意欲的に活動に取り組む。 ・友達と共通の目的をもって活動し、自分の考えやイメージを出して遊ぶ楽しさを味わう。 ・自然の変化に関心をもち、戸外で思う存分遊ぶ。	・自分の力を出して、体を動かしたり課題に挑戦したりする。 ・同じ目的をもってイメージを共有して考えを出し合いながら遊びを進める。 ・秋の自然の変化に興味をもち、遊びや生活に取り入れて楽しむ。	**・小学生と一緒にした遊びを、自分たちの遊びに取り入れたり、小学生に憧れの気持ちをもったりする。**
○期 5歳児 1～3月	・目的をもって活動し、友達同士協力し合って生活していけるようになる。 **・自分の成長に関する自信と小学校入学への期待をもつようになる。**	・友達と共通の目的をもち、活動を一緒に進めていく楽しさや充実感を味わう。 **・自分の成長に関する自信や小学生になる期待をもって主体的に行動する。**	・学級やグループの友達と、目的に合わせて役割を分担したり遊びを進めたりする。 **・もうすぐ卒園するという自覚をもって幼稚園生活を送り、小学校入学への期待をもつ。**	**・小学生との関わりの中で、憧れの気持ちを抱き小学校生活への期待をもつ。** ・未就園児から高齢者までの様々な人との関わりの中で成長したことを感じ、自分なりに自信をもつようになる。

※「発達の過程・ねらい・内容」等の項目は一例である。各園の実態及び創意工夫により設定すること。

第３節　５領域における幼稚園教育要領の改訂を踏まえた編成例

第１　編成例の見方

ここでは、今回の幼稚園教育要領の改訂により、変更されたり、付け加えられたりした項目について、具体的な編成の仕方を例示する。それらの見方は以下の通りである。

１　幼稚園教育要領の記述

まず、幼稚園教育要領における関連の記述を資料として示す。

幼稚園の教育課程は、教育基本法、学校教育法及び同法施行規則、幼稚園教育要領等の関連法令を踏まえなければならず、特に具体的なねらいや内容を組織し編成するに当たっては、教育課程の基準とされている幼稚園教育要領を十分に理解する必要がある。

２　幼児の具体的な姿とその読みとりの例

次に、幼稚園教育要領の記述を踏まえながら、幼稚園生活の中で捉えた具体的な幼児の姿と、その姿を教師がどのように読みとったかについての一例を示す。このような姿の読みとりの積み重ねが、発達の過程を捉えることにつながる。

３　教育課程の例

発達の過程：	具体的な姿を基に、（教育年限全体を見通した）長期的な視点でとらえた幼児の発達の節目や特性
ね　ら　い：	発達の過程を基に、その時期にふさわしいと捉え、組織したねらい

入園から修了までを見通して発達の過程を捉え、ねらいや内容を組織することが教育課程の編成であるが、ここでは例として、教育課程の一部分をそれぞれ示している。

なお、ここに例示した幼児の発達の過程や具体的なねらい等は、その時期の幼児の標準的な育ちを示すものではない。あくまでも、幼児の姿の把握と教育課程編成の一例として参考にされたい。

第２　領域「健康」

編成例①：「見通しをもって行動すること」を視点として

【幼稚園教育要領の記述】

○　健康，安全な生活に必要な習慣や態度を身に付け，見通しをもって行動する。

［幼稚園教育要領「健康」ねらい(3)］

○　幼稚園における生活の仕方を知り，自分たちで生活の場を整えながら見通しをもって行動する。

［幼稚園教育要領「健康」内容（8)］

○　基本的な生活習慣の形成に当たっては，家庭での生活経験に配慮し，幼児の自立心を育て，幼児が他の幼児と関わりながら主体的な活動を展開する中で，生活に必要な習慣を身に付け，次第に見通しをもって行動できるようにすること。

［幼稚園教育要領「健康」内容の取扱い(5)］

※下線部は、改訂により変更、もしくは新しく記述された部分

【幼児の具体的な姿　と

●３歳児７月

Ａが「先生、お茶こぼれちゃった」と泣きながら訴えてきた。教師が「こぼれちゃったの。拭けば大丈夫よ」と声をかけ、雑巾で拭くと、すぐに安心した表情になる。

教師が「床を拭こうね」とＡに言うと「はい」と言って、Ａは雑巾を持ってきた。教師が「Ａちゃん、雑巾持ってきてくれたの。よく気が付いたね。ありがとう」とＡの行動を認める。

以後、学級の中で水などをこぼすと、進んで雑巾を持ってきて拭いている。

●４歳児１１月

遊びの後、教師や友達と一緒に、使っていた遊具や用具を片付ける。自分が遊んでいた場所がきれいになると、他の場所を手伝う幼児もいる。

ほとんどの遊具が片付き、教師が「お部屋もお外もきれいになったね。次にすることは何かな」と、尋ねると、Ａ、Ｂが「手洗い、うがい」と水道に向かい、手洗いとうがいを始める。

他の幼児も片付けが終わると、自分から水道へ行って手洗いとうがいをする。手洗いとうがいが終わった幼児は、いすを持って教師の周りに集まってくる。

●５歳児１０月

昼食の時間、教師がテーブルを出すと、幼児はグループごとにテーブルやいすを運んで座る。「今日は○○ちゃんがお当番だよ」と、当番表を見て声をかけ合いグループ内の当番の幼児を確認する。

当番の幼児は準備に使うエプロンなどを引き出しから持ってきたり、布巾でテーブルを拭いたりする。

それが終わると、「準備をどうぞ」とグループの他の幼児に声をかける。他の幼児は各自トイレや手洗い、うがいを済ませ、弁当の準備をする。

準備が済むと当番の幼児たちが前に並び、「いただきます」と挨拶し、弁当を食べ始める。

その読みとり　の例】

● はじめは、「こぼしてしまって、叱られるのではないか」と考え、不安になるものの、教師の言葉かけや対処により、安心感をもつようになる。
　その安心感の下で、園生活の流れに見通しをもつことができてきている。
　さらに他の幼児の行動に興味や関心をもち、教師と共に自分もやってみたいという気持ちが育ってきている。

● 片付けが終わる頃に、教師が次にすることを問うと、自分たちで手洗いやうがいをして、次の活動を楽しみにしながら待てるようになる。
　生活の見通しをもち、生活に必要なことに自分たちから取り組むようになる。

● 教師が声をかけたり指示をしたりしなくても、幼児一人一人が一日の生活の見通しをもち、自分たちで生活を進めようとするようになる。
　自分の役割が分かり、当番を中心に声をかけ合って、食事の準備を進めようとしている。

【教育課程の例（部分）】

期	発達の過程	ねらい
3歳児前半	○喜んで登園し、安心して過ごすようになる	○園生活の流れを知り、教師と一緒に喜んで取り組む
4歳児中頃	○自分のことは自分でしようとする気持ちをもって取り組むようになる	○園生活の仕方が分かり、身の回りのことに自分から取り組む
5歳児中頃	○友達と一緒に、意欲的に身の回りのことに取り組むようになる	○場に応じた生活の仕方が分かり、友達と協力して、自分達で生活を進めようとする

編成例②：「多様な動きを経験すること」を視点として

【幼稚園教育要領の記述】

○　自分の体を十分に動かし，進んで運動しようとする。

［幼稚園教育要領「健康」ねらい(2)］

○ いろいろな遊びの中で十分に体を動かす。

［幼稚園教育要領「健康」内容(2)］

○　様々な遊びの中で，幼児が興味や関心，能力に応じて全身を使って活動することにより，体を動かす楽しさを味わい，自分の体を大切にしようとする気持ちが育つようにすること。その際，多様な動きを経験する中で，　体の動きを調整するようにすること。

［幼稚園教育要領「健康」内容の取扱い(2)］

※下線部は、改訂により変更、もしくは新しく記述された部分

【幼児の具体的な姿　と

●３歳児９月

Ａ「先生、鬼ごっこしよう」教師「Ａちゃん、捕まえちゃうぞ」と追いかける。歓声をあげながら逃げる様子を見てＢ、Ｃ、Ｄが「先生、こっちだよ」と言いながら、走り出す。走っては立ち止まり、教師の動きを振り返って見たり、前方にある障害物を回避したりしながら逃げる。追われていないことを感じると立ち止まり、また走り出す。

Ｄ「今度はかくれんぼをしよう。先生、数えて」と言いながら、隠れる場所を探し始める。教師は「１、２、３」と数を唱える。Ａ、Ｂ、ＣもＤの後をついて木の陰にしゃがんだり、トンネルの中に小さく寄り添って座り込んだりしている。

●４歳児１１月

Ａ、Ｂが小さなフラフープを床に並べ、両足ジャンプをしている。教師がたくさんのフラフープを用意すると、縦や横につなげ、両足ジャンプをする。Ａ「見て、ケンケンできるよ」と片足で跳び始めると、Ｂが真似をする。

その様子をそばで見ていた幼児が集まり、両足ジャンプ、片足ケンケン、横ジャンプなどいろいろな跳び方を試しながら遊び出す。

●５歳児６月

園外保育でのアスレチック体験をきっかけに、「幼稚園にアスレチックを作りたい」と、園庭でアスレチック作りを始める。

「一本橋があったらいいね」と言いながら、友達と一緒に巧技台、フープ、トンネルなど、これまで遊んできた遊具を組み合わせてアスレチックを作る。

自分たちが作ったアスレチックでの遊びに多くの幼児が進んで取り組む中で、登る、跳ぶ、走る、くぐる、ぶら下がる、渡るなどの動きを楽しんでいる。

【教育課程の例（部分）】

その読みとり　の例】

● 鬼ごっこで、走る、止まる、避けるなど自分の動きを調整することができるようになってきている。
　かくれんぼでは友達と一緒に遊ぶことを楽しみながら、腰を低くする、身体をかがめるなどいろいろな動きを体験している。

⇨

● 両足で跳ぶ動作を繰り返す中でケンケンで跳ぶことを思いついたＡの動きがきっかけとなり、周りの幼児も同じ動きをすることが楽しくなっている。
　繰り返すうちにやっていた動きを基に、自分なりに動きを考えたり試そうとしたりする気持ちが育ってきている。

⇨

● 友達とイメージを共有しながらいろいろな遊具を自分たちで工夫して組み合わせ、遊びの場を作り出している。それを使って繰り返し遊ぶ中で、多様な動きを楽しみながら経験している。

⇨

期	発達の過程	ねらい
３歳児中頃	○教師と一緒に体を動かすことを喜ぶようになる	○自分なりに楽しさを感じながら体を動かし、基本的な動きを繰り返し、より巧みな動きを体験する
４歳児中頃	○友達と遊具などを使って体を動かして遊ぶようになる	○自分なりの思いをもって、友達と一緒に体を動かすことを楽しみ、模倣などからより多くの基本的な動きを経験する
５歳児前半	○友達と一緒に試したり繰り返したりしながら、体を動かすことを楽しむようになる	○友達と工夫しながら、体を使っていろいろな動きを楽しみ、複数の動きを連続して行ったり、より複雑な動きに挑戦したりする

＜参考＞めあての設定にあたっては、各期の発達の特性や動きの獲得の仕方を考慮するとともに、成長の個人差に応じた援助について配慮する。
（「幼児期運動指針」平成２４年３月 参照）

編成例③：「食べ物への興味や関心をもつこと」を視点として

【幼稚園教育要領の記述】

○　健康，安全な生活に必要な習慣や態度を身に付け，見通しをもって行動する。

［幼稚園教育要領「健康」ねらい(3)］

○　先生や友達と食べることを楽しみ，食べ物への興味や関心をもつ。

［幼稚園教育要領「健康」内容(5)］

○　健康な心と体を育てるためには食育を通じた望ましい食習慣の形成が大切であることを踏まえ，幼児の食生活の実情に配慮し，和やかな雰囲気の中で教師や他の幼児と食べる喜びや楽しさを味わったり，様々な食べ物への興味や関心をもったりするなどし，食の大切さに気付き，進んで食べようとする気持ちが育つようにすること。

［幼稚園教育要領「健康」内容の取扱い(4)］

※下線部は、改訂により変更、もしくは新しく記述された部分

【幼児の具体的な姿　と

●３歳児９月

１学期に学級の畑にナスの苗を植え、水をあげるなど世話をして、生長を見てきた。２学期には実が大きくなった。A「先生、ナスが大きくなっているよ」B「本当だ、ぼくが取りたい」C「みんなで食べよう」と、収穫したり食べたりすることに期待をもつ姿がある。

翌日、ホットプレートで、収穫したナスを焼く。C「プチプチ音がしてきたよ」B「ほんとうだ」D「いいにおいがしてきた」A「ナスが動いているね」教師「本当だ、動いているね」E「ナスの色が変わってきたよ」など、感じたことを言葉にしたり、教師や友達の言葉を聞いたりしながら、ナスが焼けることを楽しみに待つ。

●４歳児１０月

年長児が畑で育てたサツマイモを、掘り方を教えてもらいながら一緒に掘る。その後の焼き芋パーティーで、たくさん掘れたサツマイモを焼き芋にして食べると、「ほくほくして美味しいね」と喜んでいる。

次の日は、芋堀りや焼き芋パーティーを思い出し、新聞紙や絵の具などを使ったサツマイモ作りを始める。教師が「皮は何色だったかな」と尋ねると、「この赤い色」「皮をむくと中は黄色かったよね」と教師や友達と言葉を交わしながら作っていく。

サツマイモだけでなくキュウリやトマトなど、知っている野菜作りへも活動が広がっていき、八百屋さんごっこへと発展する。

●５歳児１月

餅つきの数日前から、餅つきに使う道具（せいろ、かまど、臼、杵など）を見たり、臼と杵を使って餅つきごっこをしたりして、餅つきの様子を見ることへの期待が高まっている。

前日には、餅つきの準備としてもち米を研ぐ。Aが「家でもお米を洗ったことがあるよ」と言うので、教師が「お米を洗うことを『研ぐ』っていうんだよ」と伝える。Aは「『水が白くなくなるまで』ってお母さんが言っていたよ」と友達に教えている。もち米を研ぎながら、Bは「こんなに硬いお米がやわらかいお餅になるんだね」と不思議がっている。

その読みとり　の例】

● 収穫したナスがホットプレートの上で焼けていくのを見ながら、焼ける時のにおいを嗅いだり、音を聞いたりして、ナスの様子に関心をもち、食べることへの期待が高まっている。

⇨

● 収穫したものを友達と一緒に食べる経験から、食べ物に興味をもち、食べることを楽しむようになる。
また、収穫したり食べたりすることを通して、色や形、味やにおいなどにも気付き言葉にしたり、遊びにつなげたりするなど食べ物への興味や関心を深めている姿が見られる。

⇨

● 餅つきの準備を通して、普段から身近にある「米」について、その変化にも関心を高めている。
食べ物に関する日本の伝統的な行事である「餅つき」を見学することを通し、興味や関心の対象が、食べ物そのものから、調理の仕方や使う道具にまで広がっている。

⇨

【教育課程の例（部分）】

期	発達の過程	ねらい
3歳児中頃	○教師や友達と一緒に楽しく食べるようになる	○気付いたことや感じたことを表しながら、食べることを喜ぶ
4歳児中頃	○栽培している野菜の生長や収穫を喜び、友達と一緒に楽しく食べるようになる	○経験したことをもとに、遊びや生活の中で、食べ物や食べることに興味や関心をもつ
5歳児後半	○身近な食べ物について興味や関心をもち、感じたことや知っていることを進んで伝えるようになる	○遊びや生活、行事を通して、いろいろな食べ物について興味や関心を深める

第３　領域「人間関係」

編成例④：「工夫したり、協力したりして一緒に活動する楽しさを味わうこと」を視点として

【幼稚園教育要領の記述】

○　身近な人と親しみ，関わりを深め，工夫したり，協力したりして一緒に活動する楽しさを味わい，愛情や信頼感をもつ。

［幼稚園教育要領「人間関係」ねらい(2)］

○　友達と楽しく活動する中で，共通の目的を見いだし，工夫したり，協力したりなどする。

［幼稚園教育要領「人間関係」内容(8)］

○　幼児が互いに関わりを深め，協同して遊ぶようになるため，自ら行動する力を育てるようにするとともに，他の幼児と試行錯誤しながら活動を展開する楽しさや共通の目的が実現する喜びを味わうことができるようにすること。

［幼稚園教育要領「人間関係」内容の取扱い(3)］

※下線部は、改訂により変更、もしくは新しく記述された部分

【幼児の具体的な姿　と

●３歳児９月

通路の薄暗い一角を「お化け屋敷」と呼び、通ることを楽しんでいる。A「お化け屋敷に行ってきたの」B「怖かった」A「先生も行く」このやり取りを聞いていたC、Dも興味津々で一緒について行く。

「お化け屋敷」に着くとA「シー、静かに」と腰をかがめて歩く。B、C、Dは話すのを止め、Aの動きを真似て歩き、保育室に戻ると楽しそうに思いを伝え合う。

数日後、Aが「お化け屋敷」への地図を描く。B、C、Dも真似て描く。その後、描いた地図を持って、皆で一緒に「お化け屋敷」行きを楽しむことが続く。

●４歳児３月

「新聞紙あそび」の絵本を読んだAが「迷路が作りたい」と言う。教師「いいよ、でも一人で作るのは大変そうだね」A「じゃ、みんな呼んでくる」と絵本を見せながら友達に声をかける。すると興味をもった幼児が集まり、迷路作りが始まる。A「これをここに貼ろうかな」B「じゃ、新聞押さえるよ」C「ガムテープ、切るね」と、自分たちで思いやイメージを表し合いながら、遊びを進めていく。

●５歳児１２月

小学生との交流活動の後、「小学生のお兄さんたちみたいなくじ引きを作りたい」という思いをもつ。そこからくじ引き作りが始まり、材料を選び始める。A「どのダンボールがいいかな」B「この箱を縦にしてみようよ」C「回すところは、ペットボトルだったよね」と、小学生が作ったものの形や大きさを思い出しながら友達と相談して材料を選ぶ。

A「ペットボトルを押さえていて。穴の丸を描くから」B「切ることは得意だから私が切るね」と力を合わせて作り進めていく。

完成すると、「できた」と喜び、「赤色が出たら当たりってことね」などと、くじ引き作りからくじ引き屋さんごっこへと遊びを発展していく。

【教育課程の例（部分）】

その読みとり　の例】

● 園の生活に慣れ、学級の友達を意識し、親しみをもち、友達の行動や言葉に興味をもつようになる。
友達を真似たり、同じことをしたりするなど友達と関わりをもって遊ぶようになる。

● 友達の誘いがきっかけで遊びが始まる。絵本というイメージが共有しやすい物的な環境により、自分たちで遊びを発展しようとする気持ちが育ってきている。
友達の言葉を受け入れ自分ができることを考え、思いを伝えたり、聞いたりしながら一緒に協力して遊びを楽しもうとしている。

● 共通のイメージや目的をもって遊びを進めている。自分たちの思いを実現するため、工夫したり試行錯誤したりしながら友達と一緒に活動することを楽しんでいる。
また、自分や友達が得意なことや好きなことが分かり、それを認め合ったり、生かそうとしたりしながら協力している。

期	発達の過程	ねらい
3歳児中頃	○場や物を共有しながら、友達と関わりをもって遊ぶようになる	○友達のしていることに興味をもちながら、同じ場で遊ぶことを楽しむ
4歳児後半	○互いに思いを表しながら、一緒に遊ぶことを楽しむようになる	○友達と思いを出し合いながら、相手の気持ちに気が付いて遊びを進めようとする
5歳児中頃	○イメージを共有しながら、友達と思いや考えを伝え合って遊びを進めるようになる	○自分の思いを伝えたり、友達の思いを受け入れたりしながら、共通の目的をもって遊びを進めることを楽しむ

編成例⑤：前向きな見通しをもって、諦めずにやり遂げること」を視点として

【幼稚園教育要領の記述】

○　幼稚園生活を楽しみ，自分の力で行動することの充実感を味わう。

［幼稚園教育要領「人間関係」ねらい(1)］

○　いろいろな遊びを楽しみながら物事をやり遂げようとする気持ちをもつ。

［幼稚園教育要領「人間関係」内容(4)］

○　教師との信頼関係に支えられて自分自身の生活を確立していくことが人と関わる基盤となることを考慮し，幼児が自ら周囲に働き掛けることにより多様な感情を体験し，試行錯誤しながら諦めずにやり遂げることの達成感や，前向きな見通しをもって自分の力で行うことの充実感を味わうことができるよう，幼児の行動を見守りながら適切な援助を行うようにすること。

［幼稚園教育要領「人間関係」内容の取扱い(1)］

※下線部は、改訂により変更、もしくは新しく記述された部分

【幼児の具体的な姿　と

●３歳児９月

年中児や年長児が楽しそうに取り組むロープスライダーに興味をもち、Aが「あれがやりたい」と教師に伝えてくる。ロープスライダーが滑走を始めると、Aは「怖い」とすぐに降り、その場を離れる。少し時間が過ぎてから、A「先生、やっぱりやりたいから乗せて」と言う。再度取り組むと、最後まで滑走ができ、嬉しそうな表情をする。「できたね、すごい」と教師が一緒に喜ぶ。その後もAは「もっとやる」と繰り返し取り組んでいる。

●４歳児１１月

年長児が長縄跳びをしている様子を、年中児Aが興味をもって見ている。それに気付いた年長児Bが「跳んでみる」と誘う。

Aは回っている縄を跳ぼうとするが、タイミングが合わずうまく跳べないでいる。その様子を見たBは縄を揺らし「これを跳んでごらん」とAに声をかける。

Aは縄をよく見ながら何度も跳び、「できた」と喜んでいる。Bは「たくさん練習すれば回っているのも跳べるようになるよ」とAに話す。Aは「年長さんになったら、僕も跳べるようになるね」と嬉しそうに話している。

●５歳児１月

紐つきのこまが回せるようになったAの傍で、回すことのできないBが繰り返し挑戦している。

Aは「最後にちょっと紐を引っぱるんだよ」と回し方やコツを伝え、一緒に楽しんでいる。なかなかうまく回らないが、Bは「まっすぐ投げるのが難しい」と言いながらも、諦めずに何度も挑戦し、Aも「あと少し」と応援している。

何日もこま回しに取り組んだある日、Bのこまがついに回り、AとBは共に喜んだ。

【教育課程の例（部分）】

その読みとり　の例】

● 経験したことがない遊びにも興味をもち、自分から取り組んでみようとする気持ちが育ってきている。
体験したことによる感覚や手ごたえが、「もっとやりたい」という気持ちにつながり、繰り返し取り組むことで慣れてさらに楽しく活動するようになる。

● 「少し難しそうだ」と思うことも、年長児の姿を見て、取り組んでみようとする。年長児にコツを教わったり応援してもらったりしながら、がんばろうとする気持ちが見られるようになっている。
また、身近な憧れの存在（年長児）がいることで「自分もあんなふうになりたい」と具体的なイメージを描いたり、がんばれば自分もできるようになるという期待をもったりするようになる。

● 「紐つきのこまを回せるようになりたい」という明確な目標をもって、意欲的に挑戦している。
友達に認められたり、励まされたりする経験により、前向きな見通しをもって、諦めずに最後までやり遂げようとする。

期	発達の過程	ねらい
3歳児中頃	○好きな遊びに繰り返し取り組むようになる	○自分のやりたい遊びを見つけて、繰り返し楽しむ
4歳児中頃	○年長児の遊びに興味をもち、真似をしたり教えてもらったりすることを楽しむようになる	○年長児への憧れや期待をもちながら、遊びを広げようとして、いろいろなことに取り組む
5歳児後半	○友達の姿に刺激を受け、励まし合いながら、意欲をもって繰り返し一つのことに取り組むようになる	○自分なりの目標をもち、繰り返し取り組んだり最後まで諦めずに挑戦したりする

第４　領域「環境」

編成例⑥：「様々な文化や伝統に親しむこと」を視点として

【幼稚園教育要領の記述】

○　身近な環境に自分から関わり，発見を楽しんだり，考えたりし，それを生活に取り入れようとする。

［幼稚園教育要領「環境」ねらい(2)］

○　日常生活の中で，我が国や地域社会における様々な文化や伝統に親しむ。

［幼稚園教育要領「環境」内容(6)］

○　文化や伝統に親しむ際には，正月や節句など我が国の伝統的な行事，国歌，唱歌，わらべうたや我が国の伝統的な遊びに親しんだり，異なる文化に触れる活動に親しんだりすることを通じて，社会とのつながりの意識や国際理解の意識の芽生えなどが養われるようにすること。

［幼稚園教育要領「環境」内容の取扱い(4)］

※下線部は、改訂により変更、もしくは新しく記述された部分

【幼児の具体的な姿　と

●３歳児６月

学級全体で、七夕に関する絵本や紙芝居を見たり、笹飾りを作ったりする。出来上がってきた飾りを見ながら「いつ飾るの」と笹に飾り付けることを楽しみにしている。

また、「たなばたさま」の歌を覚えると普段の生活の中で何気なく口ずさんだり、飾り付けの時に楽しげに歌ったりしている。

●４歳児７月

幼稚園に現れた獅子舞（おしし様）に幼児は驚いている。

Ａは「おしし様は、今年も元気で暮らせますようにって、みんなのお家に行くんだよ」と驚く友達に教えている。

教師「Ａちゃんよく知っているね。幼稚園に来てくれたから、みんな元気に過ごせるね」Ａ「僕も大きくなったらお父さんのようにたくさん練習しておしし様をやるんだよ」教師「楽しみだな。そうしたら、幼稚園へも来てね」

●５歳児１０月

学級で、最後には鬼ごっこになるわらべうた遊び「ことしのぼたん」で遊ぶ。

「おみみをからげてすっとんとん♪もひとつおまけにすっとんとん♪」のフレーズに興味を示し、遊びに引き込まれている。

教師が鬼になって遊び始めたが、繰り返すうちに幼児が鬼になる。

鬼「仲間に入ーれーてー」幼児「だーめーよー」鬼「動物園に連れていってあげるから入ーれーて」幼児「だーめーよ」と鬼と言葉をやり取りしている。

その読みとり　の例】

● 七夕を知らなかった幼児も、絵本や紙芝居により七夕の由来や願いなどについて知り、興味をもっている。
　笹飾りの制作に楽しく取り組んだり、七夕の歌を歌ったりして、七夕の行事のもつ雰囲気を感じている。

● 地域の「ささら獅子舞」という伝統行事に父親が参加しているAは、おしし様をより身近に感じている。
　獅子舞の様子を見たりAから聞いたりした幼児も、地域の行事への興味、関心が広がっている。

● 友達と一緒に声を揃えて「だーめーよ」と言い切ることに楽しさを感じている。
　わらべうた遊びならではの言葉づかいや、言葉の響き、リズムの心地よさを感じながら、繰り返し楽しんでいる。

【教育課程の例（部分）】

期	発達の過程	ねらい
3歳児前半	○幼稚園で初めて出あう四季折々の行事に参加し、その雰囲気や楽しさを感じるようになる	○園行事の中で、日本古来の伝統行事にふれ、親しむ
4歳児前半	○幼稚園や家庭での経験を教師や友達と伝え合い、興味や関心が広がっていく	○様々な文化や伝統行事に対して喜んで関わり、興味をもつ
5歳児中頃	○伝統行事や文化を自分たちなりに取り入れ、身近に感じる	○わらべうたの楽しさを味わい、伝統的な文化に触れて親しみをもつ

編成例⑦：「考えたり、試したりして工夫すること」を視点として

【幼稚園教育要領の記述】

○　身近な環境に自分から関わり，発見を楽しんだり，考えたりし，それを生活に取り入れようとする。
［幼稚園教育要領「環境」ねらい（2）］

○　身近な物や遊具に興味をもって関わり，自分なりに比べたり，関連付けたりしながら考えたり，試したりして工夫して遊ぶ。
［幼稚園教育要領「環境」内容（8）］

○　幼児が，遊びの中で周囲の環境と関わり，次第に周囲の世界に好奇心を抱き，その意味や操作の仕方に関心をもち，物事の法則性に気付き，自分なりに考えることができるようになる過程を大切にすること。また，他の幼児の考えなどに触れて新しい考えを生み出す喜びや楽しさを味わい，自分の考えをよりよいものにしようとする気持ちが育つようにすること。
［幼稚園教育要領「環境」内容の取扱い(1)］

※下線部は、改訂により変更、もしくは新しく記述された部分

【幼児の具体的な姿　と

●３歳児９月

ミニカーに興味をもっているＡとＢがコースを作り、ミニカーを走らせる。次第に物足りなくなり、「もっと速く走れるようにしたい」と伝えに来る。教師が、坂道を作ることを提案すると「それがいい」と賛成する。

コースに高低差をつけると勢いよく走るようになる。「すごい!」と喜ぶが、すぐに転がり落ちてしまう。その様子を見ていたＣとＤも仲間入りし、４人で一緒に遊ぶ。

成功したり失敗したりすることを繰り返すうち、「一人ずつでないとすぐに落ちてしまう」と気付き、「一人ずつ順番に走らせる」という新しい遊びのルールを加えている。

●４歳児１１月

電車で行った遠足の後、電車や線路を作る遊びが始まる。Ａたちがビニールテープで線路を作っている途中、他の幼児が電車を走らせようとすると、Ａは「まだ走らないで」と言う。

教師が「まだ工事中ですよ」と言うと、Ａは「そうだ、工事の人はヘルメットを被ってるんだ」と呟き、ラーメンカップでヘルメットを作る。するとＢが「夜も工事をするから懐中電灯も必要だよ」とラップの芯やプリンカップで懐中電灯を作る。

他の幼児も遊びに加わり、ライトの色やスイッチを工夫している。

●５歳児６月

ペットボトルの蓋とビー玉を使った動く遊具で遊んでいる。少しの傾斜があるとうまく動くことに気付き、小さな机や、三角形と長方形の積み木などを組み合わせてコースを作り始める。

何回か転がしてみると、コースを外れてしてしまうことが多く、どうすればゴールまで転がせるか、工夫し始める。

コースを外れてしまう原因を友達と考え、スタートの積み木の角度を変えたり、スタート時の高さや勢いのつけ方を調整したりするなどの修正を繰り返している。

その読みとり　の例】

● 「もっと速くミニカーを走らせたい」という幼児の思いが満たされ、遊びを楽しんでいる。
　試したり工夫したりする経験を繰り返すことで、どうすれば成功するのかを３歳児なりに考え、一人ずつ順番に行うという新しいルールも作りながら遊びを進めようとしている。

● 見たことのある電車の工事現場の様子をイメージし、教師や友達と伝え合いながら遊びを進めている。
　多様な見立てを繰り返し、考えたり、工夫したりすることを楽しみながら、イメージしたことを形にしようとしている。

● 遊んでいる中で、ビー玉が作ったコースを外れてしまうという予想しない事態に直面し、その原因と解決方法を友達と共に考えている。
　ゴールまでどうしたらコースを外れずにビー玉を転がせるのか、その方法を考え、様々なことを試してみたり、工夫したりしながら遊びを進めている。

【教育課程の例（部分）】

期	発達の過程	ねらい
３歳児中頃	○教師や友達と同じ物を持ち、同じ場所で遊ぶことを通して、色々な遊びの面白さを感じるようになる	○色々な遊びを経験する中で、自分なりに工夫して繰り返して楽しもうとする
４歳児中頃	○幼稚園や家庭での経験を教師や友達と伝え合い、興味や関心が広がっていく	○自分の思いやイメージを出し合いながら、友達と遊びを進める楽しさを味わう
５歳児前半	○目的に向かって友達と試行錯誤しながら遊びを進めていくようになる	○共通の目的に向かって、友達と思いや考えを伝え合いながら遊びを進め、自分の考えをよりよいものにしようとする

第５　領域「言葉」

編成例⑧：「言葉に対する感覚を豊かにすること」を視点として

【幼稚園教育要領の記述】

○　日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに，絵本や物語などに親しみ，言葉に対する感覚を豊かにし，先生や友達と心を通わせる。

［幼稚園教育要領「言葉」ねらい(3)］

○　生活の中で言葉の楽しさや美しさに気付く。

○　いろいろな体験を通じてイメージや言葉を豊かにする。

○　絵本や物語などに親しみ，興味をもって聞き，想像をする楽しさを味わう。

［幼稚園教育要領「言葉」内容(7)～(9)］

○　幼児が生活の中で，言葉の響きやリズム，新しい言葉や表現などに触れ，これらを使う楽しさを味わえるようにすること。その際，絵本や物語に親しんだり，言葉遊びなどをしたりすることを通して，言葉が豊かになるようにすること。

［幼稚園教育要領「言葉」内容の取扱い(4)］

※下線部は、改訂により変更、もしくは新しく記述された部分

【幼児の具体的な姿　と

●３歳児６月

ある日、学級で「あまだれぽったん」を歌い始める。

その数日後に雨が降ってくると、雨に気付いたＡが「雨、降ってるね」と言い、Ｂが「あまだれぽったんだ」と言う。

すると、他の幼児も楽しげに「ぽったんぽったんぽったんたん♪」と歌ったり踊ったりして遊び出す。

●４歳児１０月

教師が絵本「きょだいな　きょだいな」を読み聞かせる。

その後、絵本コーナーに置いておいた絵本を興味深く見ていたＡとＢが、絵本の中の「あったとさ、あったとさ　きょだいな○○あったとさ」の一節を口ずさむようになる。

周りの幼児もそのリズムを気に入り、つられるように復唱するようになる。

そのうちに「きょだいな」の言葉の後に、絵本には登場しないものを自分たちで当てはめるなど、言葉遊びを楽しんでいる。

●５歳児１０月

廊下の壁面に「うんどうかい」と文字を飾ると、向かい側にある鏡に「いかうどんう」と鏡文字になって映し出された。

それを読んだＡは、言葉を反対から読む「逆さ言葉」にすると違う意味になることに気付く。

「『トマト』は反対から読んでも『トマト』だよ」「ぼくは『れお』だから『おれ』になる」と逆さ言葉を友達と考え、言葉を発見する面白さを味わっている。

その読みとり　の例】

● 「あまだれぽったん」の曲のリズムや言葉を覚えて、楽しげに繰り返し歌うようになっている。
　雨が降ってきた時には、「あまだれぽったん」を思い出し「ぽったん、ぽったん」と言葉を発したり、喜んで歌ったり踊ったりして楽しむ。

● ＡとＢが繰り返している「あったとさあったとさ」のリズミカルなフレーズに、他の幼児も興味をもつようになっている。友達と言葉遊びを楽しみながら、「こういう、きょだいなものがあったらいいな」と絵本の世界を思い返し、想像を膨らませている。

● 「うんどうかい」の文字の中に「いかうどん」が隠れていた驚きの発見から、言葉への興味が広がり、言葉の仕組みに興味をもっている。
　言葉遊びを通して、自分が知っている言葉を使ったり、新しい言葉を聞いたりすることで言葉に対する感覚が豊かに育っている。

【教育課程の例（部分）】

期	発達の過程	ねらい
3歳児前半	○幼稚園で覚えた歌を喜んで歌うようになる	○歌詞に合わせて、思いのままに歌ったり踊ったりして、言葉の響きやリズムを楽しむ
4歳児中頃	○たくさんの絵本に出あい、友達と一緒にお話の世界を楽しむ ○新しい言葉に興味をもち、自分なりに取り入れてみようとする	○友達と一緒に、言葉の響きやリズムを楽しみ、想像を広げて遊びの中に取り入れる
5歳児中頃	○友達とのやりとりを楽しむ中で、言葉への興味や関心が高まっていく	○友達と一緒に、言葉遊びを楽しみ、さまざまな言葉を想起して、言葉の感覚を豊かにする

第６　領域「表現」

編成例⑨：「身近な環境との関わりの中で様々に表現すること」を視点として

【幼稚園教育要領の記述】

○　いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。

［幼稚園教育要領「表現」ねらい(1)］

○　生活の中で様々な音，形，色，手触り，動きなどに気付いたり，感じたりするなどして楽しむ。

○　生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ，イメージを豊かにする。

［幼稚園教育要領「表現」内容(1)(2)］

○　豊かな感性は，身近な環境と十分に関わる中で美しいもの，優れたもの，心を動かす出来事などに出会い，そこから得た感動を他の幼児や教師と共有し，様々に表現することなどを通して養われるようにすること。<u>その際，風の音や雨の音，身近にある草や花の形や色など自然の中にある音，形，色などに気付くようにすること。</u>

［幼稚園教育要領「表現」内容の取扱い(1)］

※下線部は、改訂により変更、もしくは新しく記述された部分

【幼児の具体的な姿　と

●３歳児７月

咲き終わってしぼんだオシロイバナの花びらをＡが取ろうとすると、指がピンク色に染まる。Ａは「指がピンクになっちゃった」と教師に知らせに来る。

そして、ビニール袋の中に入れたオシロイバナの花びらを袋の上から指ですりつぶすと、ピンク色の汁が出てくることを知り、「出てきた、見て」と喜ぶ。Ａは「ピンクのお水出てこい、出てこい」と呪文のように唱えながら花をすりつぶす。

それに誘われて、他の幼児もＡを真似て同じように唱えながら花をすりつぶす。

出来上がると「イチゴジュースになった」と喜び、友達と見せ合い、色水をジュースに見立てて遊ぶ。

●４歳児６月

プラネタリウム見学での楽しい体験をもとにプラネタリウム作りを始める。

暗くて星がたくさんあった様子を思い返しながら、小さな穴を空けた黒いビニールを窓に貼るなどする。

小さな穴から差し込んだ光が星のように輝いて見え、またその光が床に映し出されると、「星が映ってる」と手で触れてみようとするなどして、影の仕組みを不思議がっている。

そのうち床に星が映る「見下ろすプラネタリウム屋さん」として遊びが始まる。

光が差し込まない時には「今はお休みです」と天気の状況を感じ取りながら遊びを進めている。

●５歳児６月

花壇に種を蒔いたヒマワリとアサガオの様子を見に行く。ヒマワリの芽を見つけたＡは、他の場所にも出ていないかと探し始める。別の芽を見つけ「こっちにもあるよ」と教師に声をかける。見つけたばかりのアサガオの双葉を見ながら「これはさっきのと葉っぱの形が違うね」と話す。

教師が「これはアサガオで、さっきのはヒマワリだよ」と伝えると、「そうなんだ」と納得した様子でアサガオの双葉をじっと見ている。「あれ、見て。葉っぱの間から、またちょっとだけ、葉っぱが出ているよ」と小さな本葉を覗き込む。「この葉っぱもヒマワリとは違う形になるのかな」と話す。

その読みとり　の例】

● オシロイバナの花びらを触ると、指がピンク色に染まる不思議さを驚きをもって感じている。
　ピンク色の水が出てくることを願い、友達と共に「出てこい」と唱えながら、花を指ですりつぶすことを楽しんでいる。

● プラネタリウム見学という共通体験を通し、その時の感動をもとに、友達と作りたいもののイメージを共有しつつ、作りながらそのイメージに近づいていく楽しさを感じている。
　太陽の光や影の存在に気付き、その感動を遊びに生かしている。

● はじめは芽を探すことを楽しんでいたものの、見つけた２つの双葉の種類の違いに気付く。
　１つの双葉をじっと見続け、本葉の発見を喜びながら、形や様子について気付いたことを出来るだけ詳しく正確に表現しようとしている。

【教育課程の例（部分）】

期	発達の過程	ねらい
３歳児前半	○教師や友達と身近な自然に触れて遊ぶことを楽しむ姿が見られる	○身近な草花から不思議さや面白さを感じ、教師や友達と繰り返し遊びを楽しむ
４歳児前半	○共通体験を通し、個々に思ったり感じたりしたことを伝えながら遊びを楽しむようになる	○体験からイメージした物を工夫して作ったり、作ったもので遊んだりして、自分なりの表現を楽しむ
５歳児前半	○体験した事やイメージしたことを本物らしく、正確に表現しようと工夫する姿が多く見られる	○身近な草花について、気づいた事や考えた事などを、いろいろな表現の仕方で伝え合って遊びを楽しむ